


げんでん ふれあい 福井

2008 SPRING 第30号

A photograph of children in a traditional Japanese hall, possibly a shrine or festival. They are holding long, thin wooden poles. The walls are covered with calligraphy scrolls. The children are wearing winter clothing, including jackets and boots. The scene is indoors, with a wooden floor and walls.

おかげさまで財団設立10周年
げんでんふれあい福井財団の
役割と活動(下)

第9回 げんでんふるさと文化賞
および 芸術新人賞 受賞者紹介

ふるさと福井 人物シリーズ 「若狭の妙玄寺義門(下)」



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的としています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS — 30

- おかげさまで財団設立10周年 げんでんふれあい福井財団の役割と活動(下) …… 2
- 財団10年のあゆみ(Ⅱ) …… 4
- 座談会 「福井の文化とふるさとづくり」を語る …… 6
- 第9回げんでんふるさと文化賞 および芸術新人賞 受賞者紹介 …… 8
- ふるさと福井人物シリーズ 「若狭の妙玄寺義門(下)」 …… 10
- 第10回ふるさと大賞 写真コンテスト入賞作品 …… 12
- ふくいの伝統行事シリーズ 「ばいもしょ」 …… 14
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/24 神功皇后回 一編 …… 15
- 福井の文学碑「作家・俳人 多田裕計」 …… 16
- 第10回「狂言を楽しむ会」 …… 17
- 日英小学生絵画文展 …… 18
- 情報ファイル …… 18

FRONT COVER



福井県指定
無形民俗文化財

「ばいもしょ」

(池田町)

池田町水海地区に伝わる「ばいもしょ」が、本年も製作を願い二月十三日午後三時から地元の子供達も参加して、同地区の鶴甘神社に奉納されました。

神事は、前段の男女二人の老人役による農作業についての掛け合いと、後段の棒の取り合いからなっています。
子供達は、境内で寒いやつた五本の棒を持って拝殿に入り「おともせんせんや、おともせんせんや」と囃しながら輪になって棒で床をトントンと突きながら数回廻り、作業が終わると全員が餅まらうと解散しました。(関連記事(14頁)ふくいの伝統行事シリーズ)

おかげさまで 財団設立十周年

ひめくわし

財団設立十周年を迎えて

げんでんふれあい福井財団
理事長 前川 則夫



げんでんふれあい福井財団の役割と活動(下)

ふれあい・ゆとりの文化の郷土をめざして

げんでんふれあい福井財団は、福井県の美しい自然、歴史、人、生活などの地域資源を活用し、地域との交流を通して地域文化の振興とふれあいとゆとりのある郷土づくりをめざして、地域社会の向上と発展に役立ちたいとの願いから財団法人を設立しておかげさまで平成十九年十二月十九日で十周年を迎えました。

また、当財団の広報誌「げんでんふれあい福井」が平成十年五月に創刊して以来今号で三十号を発行することができました。

これまでに福井県内の地域の方々や文化団体との交流と連携を密にして地

域に根ざした信頼される財団として活動し微力ではありますが実績を積み重ねてくることができましたことは、福井県および市町村の当局ならびに、県内の文化団体をはじめ多くの方々にお世話になりました賜でございます。感謝申し上げます。

これまでの十カ年の活動をステップに財団の事業内容をたえず進化させて、また、皆様方との絆を大切に、さらに信頼される財団として地道な活動ではございますが、二十周年に向けて努力を重ねてまいりますので、今後ともご支援をいただきますようお願い申し上げます。

これまでの活動実績

財団では、これまで福井県内の文化の振興をはじめ多くの事業活動を行ってきました。その主な事業の実績を紹介いたします。

助成事業の実績

地域文化の振興とふれあいとゆとりのある地域活動を支援するため、福井県内の各種文化団体への助成事業を実施しました。これまでの助成実績は下表のとおりです。

年 度	助成決定 団体数	助成決定 総額(千円)
平成9年度	17団体	2,200
平成10年度	74団体	15,920
平成11年度	100団体	21,310
平成12年度	122団体	24,190
平成13年度	118団体	23,790
平成14年度	122団体	25,940
平成15年度	129団体	23,220
平成16年度	133団体	19,580
平成17年度	117団体	22,120
平成18年度	113団体	21,970
平成19年度	133団体	25,000

げんでんふるさと文化賞・げんでん芸術新人賞の受賞者

福井県の地域文化の発展に尽力し、顕著な功績のあった人に「げんでんふるさと文化賞」を、新人芸術家で将来を大いに期待できる芸術活動を行っている人に「げんでん芸術新人賞」を贈っています。これまでの受賞者は次表のとおりです。

げんでんふるさと文化賞				
第1回～第9回（平成11年～19年度）				
回次	受賞者氏名	生誕年	住所	分野
第1回 (平成11年度)	土 師 英二郎	81	三国町	短歌
	渡 部 智	78	清水町	陶芸・文化運動
	田 崎 三 男	73	坂井町	文化運動・茶道
第2回 (平成12年度)	古 田 正 喜	82	小浜市	絵画造形
	田 中 豊 子	75	今立町	音楽(声楽)
	上 坂 紀 夫	69	敦生市	文学
第3回 (平成13年度)	飯 澤 展 舟(尚志)	78	敦生市	書道
	永 江 秀 雄	75	上中町	民俗文化
	高 橋 雪 枝	66	鯖江市	短歌
第4回 (平成14年度)	塚 田 瑞 穂(智)	73	鯖江市	書道・文化運動
	北 野 留 雪(一子)	71	三国町	茶・茶道
	金 田 久 理	59	美浜町	民俗文化
第5回 (平成15年度)	中 瀬 実	76	敦賀市	文化運動
	竹 内 成 鴻	73	福井市	演劇
	藤 井 則 行	69	福井市	児童文学
第6回 (平成16年度)	中 島 敦 男	76	小浜市	郷土文化振興
	吉 川 壽 一	61	福井市	書道
	渡 辺 定 路	71	福井市	植物学研究
第7回 (平成17年度)	吉 田 敏 夫	78	鯖江市	俳句
	幸 光 八洲治	65	敦賀市	書道
	清 水 八洲男	61	福井市	音楽(吹奏楽)
第8回 (平成18年度)	豊 田 三 郎	98	福井市	洋画
	上 原 徳 治	74	小浜市	文化活動・洋画
	長谷川 芙美女	87	鯖江市	川柳
第9回 (平成19年度)	渡 辺 淳	76	おおい町	洋画・文化活動
	増 永 油 男	74	福井市	文学
	坪 田 信 子	64	あわら市	音楽(声楽)

(敬称略)

(敬称略)

げんでん芸術新人賞				
第1回～第9回（平成11年～19年度）				
回次	受賞者氏名	生誕年	住所	分野
第1回 (平成11年度)	花 柳 輔千里 (本名:中台千里)	43	坂井市	日本舞踊
	高 木 美祐貴	42	金津町	洋舞(バレエ)
第2回 (平成12年度)	荒 島 雅 彰 (本名:典子)	41	坂井市	邦楽(華曲)
	古 田 豊 一	36	越前町	工芸美術(越前焼)
第3回 (平成13年度)	南 部 匡 恵	34	上志比村	洋楽(クラリネット)
	佐 藤 裕 男	48	坂井町	能楽
第4回 (平成14年度)	浅 井 裕 規	39	坂井市	邦楽(吹奏楽)
	藤 岡 勲三朗 (本名:田川 勲三)	42	坂井市	日本舞踊
第5回 (平成15年度)	林 下 幸 世	31	丸岡町	洋舞(バレエ)
	松 田 章	44	鯖江市	漆工芸
第6回 (平成16年度)	築 山 桂	35	坂井市	文学
	平 岡 愛 子	30	鯖江市	洋楽(マリンバ)
第7回 (平成17年度)	山 本 真 澄	40	鯖江市	音楽(吹奏楽)
	前 田 美智代	43	越前市	洋舞(バレエ)
第8回 (平成18年度)	櫻 井 孝 江	38	坂井市	書道
	後 出 和 子	35	坂井市	剣道舞道
第9回 (平成19年度)	上 坂 豊	47	越前町	郷土芸能(和太鼓)
	坪 田 麗 子	44	坂井市	洋舞(バレエ)

ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品（優秀賞以上）

第1回～第10回（平成10年～19年度）

回次	テーマ	賞	作品名	氏名	住所	備考
第1回 (平成10年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	海辺ほり	大塚 二郎	丸岡町	
		ふるさと賞(一般)	林間	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝もやに染く	寺尾美代子	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の少女図	藤井 一穂	おおい町	
		優秀賞(男性)	朝の光とかけっこ	新田 利子	坂井市	
		優秀賞(一般)	ふるさとを愛する心	栗原 忠	越前町	
		優秀賞(男性)	朝の光の下で	辻 弘男	敦賀市	
		優秀賞(学生)	大い!	河野 雄太	武生市	
		ふるさと大賞	新しいふるさと	新田 利子	坂井市	
		ふるさと賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第2回 (平成11年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光	寺尾美代子	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	新田 利子	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光	藤井 孝	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光	松村 浩	鯖江市	
		優秀賞(学生)	朝の光	河野 雄太	武生市	
		ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		ふるさと賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第3回 (平成12年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第4回 (平成13年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第5回 (平成14年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第6回 (平成15年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第7回 (平成16年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第8回 (平成17年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第9回 (平成18年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
第10回 (平成19年度)	ふるさと大賞 「ふるさとを愛する心」	ふるさと大賞	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(一般)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(女性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	
		優秀賞(男性)	朝の光の輝き	三上 勲	坂井市	

(敬称略)

ふるさと大賞写真コンテストの入賞者

福井県の文化の振興と育成およびふるさと意識の高揚を図ることを目的に、ふるさと福井の自然、歴史、文化等の地域資源を題材とした写真コンテストを行っています。これまでの入賞者は次表のとおりです。

財団十年のあゆみ(Ⅱ)

平成十四年～平成十九年

平成十四年(二〇〇二年)

一月 ■ 第三回げんでんふるさと文化賞(三名) げんでん芸術新人賞(二名) 表彰式。

■ 第四回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「21世紀に伝えたいふるさとのまじ」)入賞者表彰式。

三月 ■ 「今川裕代ピアノリサイタル」に協賛



今川裕代ピアノリサイタル

六月 ■ 「げんでんふれあいコンサート」(ジャズ&ゴスペル)開催。出演 日野皓正、北野タタオ 他

於 敦賀市民文化センター。文化講演会「字の読めない母へのおもい」講師 バイマーマンシン氏

於 福井県生活学習館。

十月 ■ 「能・狂言を楽しむ会」開催 出演 味方玄 他

於 敦賀市プラザ萬象。第六回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

十一月 ■ 「げんでんふれあいコンサート」(ジャズ&サルサ&ブルース&ゴスペル)開催。出演 つのだ・ひろ 他

他 於 ハーモニールホールふくい。十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催 於 敦賀原子力館・げんでんふれあいギャラリー。

平成十五年(二〇〇三年)

一月 ■ 財団設立五周年を記念して、シンボルマークを公募し審査会において決定。



二月 ■ 第四回げんでんふるさと文化賞(三名)、げんでん芸術新人賞(二名) 表彰式。

■ 第五回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「ふるさとの四季」といとなみ)入賞者およびシンボルマーク入賞者表彰式。

六月 ■ 「げんでんふれあいコンサート」(ミュージックフェスター)開催。

出演 岩崎宏美、夏川りみ 於 敦賀市民文化センター。文化講演会「食育のすすめ」開催。

講師 服部幸恵氏(料理研究家) 於 福井県自治会館。

七月 ■ 敦賀市内中学生五名をイギリスへ視察派遣。

八月 ■ 第27回全国高等学校総合文化祭福井大会が県内の各会場で開催。



第27回全国高等学校総合文化祭福井大会 開会式(サントーム福井)

九月 ■ 若狭博2003に協賛

「イリュージョンマジックショー」開催

於 小浜市海会場交流ステージ。「げんでんふれあいコンサート」(研ナオコ ラブライブライフ2003)開催。於 福井市フェニックスプラザ。

十月 ■ 第七回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

十一月 ■ 「狂言を楽しむ会」開催。出演 茂山千作一門

於 敦賀市プラザ萬象。

十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催。於 敦賀原子力館・げんでんふれあいギャラリー

平成十六年(二〇〇四年)

一月 ■ 第五回げんでんふるさと文化賞(三名)、げんでん芸術新人賞(二名) 表彰式。

■ 第六回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「21世紀のふるさと」の風景)入賞者表彰式。

四月 ■ 「げんでんふれあいコンサート2004」開催。

出演 森山良子、チエンミン 他

於 福井市フェニックスプラザ。文化講演会「祇園の教訓」開催。講師 岩崎峰子氏(元芸妓)

七月 ■ 文化講演会「親が変わらなければ子も変わらぬ」開催。講師 金沢康裕氏(牧師)

於 福井県生活学習館。

英国の中学生十名を敦賀市へ招き、敦賀市内の中学生と親善交流。

十月 ■ 第八回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

十一月 ■ 「狂言を楽しむ会」開催。出演 茂山千作一門

於 敦賀市プラザ萬象。

「げんでんふれあいスペシャル」(春にして君を離れ)開催。出演 大和田伸也、多岐川裕美、栗てる美 他

於 敦賀市民文化センター。



「げんでんふれあいスペシャル」春にして君を離れ

十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催。於 敦賀原子力館・げんでんふれあいギャラリー。

平成十七年（二〇〇五年）

二月 ■ 第八回げんでんふるさと文化賞（三名）、げんでん芸術新人賞（二名）表彰式。

第七回「ふるさと大賞」写真コンテスト（テーマ「今に思づくふるさととの素顔」）入賞者表彰式。

六月 ■ 「げんでんふれあいコンサート2005」（和田アキ子 W-T-H-Y-O-U）開催。
於 福井市フェニックスプラザ。

七月 ■ 文化講演会「子育てが楽しくなる十三の提案」。

講師 清水國明氏（タレント）
於 福井県生活学習館。



文化講演会 講師 清水國明氏

十月 ■ 「げんでんふれあいコンサート2005」（河村隆一コンサート）開催。
於 敦賀市民文化センター。



げんでんふれあいコンサート2005 河村隆一

第九回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

「第20回国民文化祭・ふくい2005」が県内各地の会場で開催。



第20回国民文化祭・ふくい2005

十一月 ■ 「狂言を楽しむ会」開催。

出演 茂山千作一門
於 敦賀市プラザ萬象。

文化講演会「大人たちよ、子供に今こそ語ろう！」開催。
講師 桑原征平氏（元アナウンサー）
於 敦賀市プラザ萬象。

第23回近畿高等学校総合文化祭福井大会が県内十四会場で開催。

十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催。
於 敦賀原子力館・げんでんふれあいギャラリー。

平成十八年（二〇〇六年）

二月 ■ 第七回げんでんふるさと文化賞（三名）、げんでん芸術新人賞（二名）表彰式。

第八回「ふるさと大賞」写真コンテスト（テーマ「ふるさととの祭と語り」）入賞者表彰式。
五月 ■ 「げんでんふれあいコンサート2006」開催。

出演 原田真二、大黒摩季。

於 福井市フェニックスプラザ。



げんでんふれあいコンサート2006 原田真二&大黒摩季

七月 ■ 文化講演会「大人たちよ、子供に今こそ語ろう！」開催。
講師 桑原征平氏（元アナウンサー）
於 福井県生活学習館。

敦賀市内中学生五名をイギリスへ親善派遣。

十月 ■ 第十回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

十一月 ■ 「能狂言を楽しむ会」開催。
出演 味方玄氏 他

於 敦賀市プラザ萬象。
「げんでんふれあいコンサート2006」（オペラ「つめがの魔笛」）開催。出演 吉田浩之、大和田伸也 他

於 敦賀市民文化センター。
十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催。

平成十九年（二〇〇七年）

二月 ■ 第八回げんでんふるさと文化賞（三名）、げんでん芸術新人賞（二名）表彰式。

第九回「ふるさと大賞」写真コンテスト（テーマ「ここにふるさとがある〜ふくいの感動〜」）。入賞者表彰式。

文化講演会「人生いつもあり

がとろ」開催。講師 吉川精一氏（元アナウンサー）
於 小浜市文化会館。

三月 ■ 第三回フォーラム「王の舞さんと若狭路の民俗」開催。
若狭路文化研究会と共催。

於 美浜町中央公民館。
五月 ■ 文化講演会「地球温暖化と異常気象について」開催。
講師 村山晋司氏（気象予報士）
於 敦賀市男女共同参画センター。

七月 ■ 文化講演会「自分らしく生きる」開催。
講師 梶浦椰子氏（タレント）
於 福井県生活学習館。

「げんでんふれあいコンサート2007」（美輪明宏音楽会△愛V）開催。

於 福井市フェニックスプラザ。

十月 ■ 第十一回「福祉演芸会」を県内六福祉施設で巡回開催。

十一月 ■ 「狂言を楽しむ会」開催。
出演 茂山千五郎家一門
於 敦賀市プラザ萬象。

十二月 ■ 日・英小学生絵画交流展開催。
四月〜 ■ 継体天皇即位一五〇〇年を記念する顕彰事業が県内の継体天皇ゆかりの地において各団体により開催。

「財団十年のあゆみ」を詳しく知りたい方は、「げんでんふれあい福井」をご覧ください。

「げんでんふれあい福井」は、創刊号から第二十九号までを財団ホームページ（HP <http://www.gendan.or.jp>）に全てを掲載しております。

(財)げんでんふれあい福井財団は、設立して以来おかげさまで平成十九年十二月で一〇周年を迎えました。また、当財団の広報誌「げんでんふれあい福井」が平成十年五月に創刊して、今号で三〇号となりました。これを記念して、平成二十年一月九日に県内の文化関係で活躍されておられます四人の方々と財団理事長を交えて座談会を開き、財団が取り組んでいる「福井県の文化の振興とふれあいとゆとりあるふるさとづくり」について語っていただきました。

福井の文化について

理事長：当財団は、微力でございますがこれまで推進してきました「福井県の文化の振興とふれあいとゆとりあるふるさとづくり」について、まず初めに各々の分野で活躍の皆さんに日頃考えておられる「福井の文化」についてその思いをお聞かせ下さい。

佐野：「文化」のとらえ方にはいろいろありますが、気候・風土は福井県は南限と北限が接しており、生活習慣や方言も越前と若狭では北陸と関西の違いがある。若狭が食文化中心だとすると、越前ではモノづくり。宗教面でも、若狭が密教文化圏だとすると、越前は真宗文化圏。そういう自然・風土と歴史・伝統にちがわれたものを大事にしながら、文化的エネルギーを生み出していると思っています。

福山：平成十七年の第20回国民文化祭や平成十五年の全国高等学校総合文化祭が本県で開催されました。これまで個々の団体が活動していたものが集積し合い成功をおさめ高い評価を得ました。今、福井の文化は成熟期に向かって育っていく段階ではないかと思っています。



福井らしい文化が創造され、文化活動が積極的になることは、地域の活力となり、発展につながると思います。そのため、けん引力になる様に活動を展開している団体に応援していくことが必要だと感じています。

千葉：各団体は国民文化祭を開催したことで力をつけてきています。更に発展させるために力を貸してほしい。また、伝統文化について継承していくことが一番の課題です。人的にも困っています。伝統文化の振興

出席者

- 福井県文化協議会専務理事 前川 邦夫さん
- 敦賀市文化協会会長 千葉 半厓さん
- 福井県文化振興事業顧問 福山美智栄さん
- 福井新聞社特別顧問 佐野 周一さん
- げんでんふれあい福井財団理事長 前川 剛夫

に更に力を入れてほしいと思っています。

前川：昨年は継体天皇即位千五百年で各種のイベントが行われ盛り上がりましたが、福井出身のすばらしい偉人が多く出ていらっしゃいます。郷土の偉い人物を若い人に紹介することによって励みになると思っています。

財団これまでの活動について

理事長：財団がこれまで活動してきた助成事業や芸術鑑賞、特色づくりなどについてその評価などをお聞かせ下さい。

佐野：財団のこれまでに積上げてきた文化活動に対する成果は大きい。助成事業や自主事業など地域に根ざした活動を十年間で定着し、地域文化に十分貢献していると思えます。原電の宣伝をする機会でないことが皆さんに理解されていますし、これから財団に対する期待が高まってくると思えます。



佐野周一さん

理事長：財団は、決して原電の宣伝する機関ではなくて福井県の文化の振興のお手伝いをする。地域の皆さんが自主的に活動されることに対して応援させていただくという方針でやってきましたし、これからもこの方針でやっていきたいと考えています。

千葉：各団体の活動について力を貸していただいておりますが大変ありがたい。市民は、財団のお陰で文化に対する理解を深めています。特に「能・狂言」を毎年継続的に公演されて



千葉半厓さん

おり地域の人々は身近に感じています。今まで一部ですが財団は、原電の宣伝と感じている人もいました。今は、財団の活動が理解されています。この十年間で基礎づくりをさせていただいた。これからも文化のふるさとづくりを展開してほしいと思えます。

前川：原電という印象で最初は一部に適應していた方もおられたと思いますが、財団の趣旨がこの十年間で理解されてきて、今は、財団の文化振興の助成を多くの団体が希望して助成を受けておりありがたいことです。

広報誌について

前川：「げんでんふれあい福井」は今まで読ませていただいています。

「福井の文化とふるさとづくり」を語る

貴重な資料です。「福井の人物」に岡倉天心の弟で英文学者の岡倉由三郎先生や斎藤静先生など本県出身の



前川 邦夫さん

偉大な方々、石塚左玄先生など食文化や池田町に伝わる能面づくりなど「実は福井」というものをとりあげて、知られていないことを紹介し、それを読んだ次世代の人達にそのことが励みになって頑張っていたいただきたいと考えています。

福山：物理学界のノーベル賞と云われる南部陽一郎先生、文化勲章を受章された世界的天文学者藤田良雄先生など、広い分野で紹介して若い人も興味深くなっていくよう是非継続していただきたい企画です。また、地域の宝など、うすもれていくものをさがし掲載、紹介するため県民の皆さんから寄稿してもらおうとか……。
佐野：福井の文化が北前船により全国にどの様に伝えられ各地にどのような影響を与えてきているか調べてみるとおもしろいと思います。
理事長：広報誌に対するご意見をいただきありがとうございます。参考にさせていただきます。

今後の財団の進路のために

理事長：財団は特色ある活動に配慮していますが、今後二十周年に向けての進路のためのアドバイスを伺いたいと思います。

千葉：無形民俗文化財の保存、伝承が大切です。敦賀の杵見にある「お田植祭」は永く休んでいましたが、財団の助成を受けて復活したことで、県外からも見学にみえるなど地域の活力になっています。

福山：無形民俗文化財は歴史の中で受け継がれ住民の生活に直結したもので地域起しの原動力ではないでしょうか。

佐野：高浜町の七年まつり、小浜市和久里の壬生狂言、敦賀の系びす大黒綱引など伝統あるものが多い。若狭は、民俗文化の宝庫といわれています。伝統ある文化に対して今後も支援を続けてほしいと思います。

福山：財団の助成や支援のあり方についてですが、これまで芸術鑑賞機会の提供や各団体への助成など多くの事業に取り組んでおられますが、文化を支える人、継承する人づくりが大切です。特に、人材育成につ



福山 美智栄さん

て力を入れていただきたいと、四つの方策を提案します。
一点は、芸術、文化に意欲をもって勉強する人に対して、レベルアップするため支援すること。

二点目は、アートマネジメントの育成です。音楽会、美術展、他に地域づくりのための催しをする時、企画立案、広報、チケットの販売までを総合的にマネジメントする人を育てる

こと。福井に育っていない。育成するための講座の開設が必要です。

三点目は、後継者の育成です。特に無形民俗文化財の後継者を継続的に育成することで、学校や地域の連携が必要とされています。

四点目は、文化ボランティアの育成です。専門的なノウハウを持った人が中心になって文化活動を行うことが必要とされています。

佐野：そのとおりです。①アートマネジメントする人がいないと事が始まらない。キーマンを育てることが必要です。②表現者、芸術家を育てること。③文化を支える文化ボランティアの組織づくり。④後継者の育成。これに一つ追加したいのが、⑤親睦する組織づくりです。観る人のグループや組織をつくり芸術文化の認識を高めていただくことです。

福山：地元で核になる人、総合ディレクターなどの人づくりは、「アートマネジメント実践講座」で養成できます。一講座は三十人、年六回程度の受講で良いと思いますが、バックアップすることが必要です。

佐野：文化の企画立案などに意欲のある人「キーマン」の養成で、アートマネージャーが育つとまちづくりにつながると思います。

福山：人の育成は、げんでんふれあい福井財団だけでなく、文化を擁護している団体等が力を合わせて総合的に支えていくことが大切です。

佐野：文化活動の精度を高めるためには総合的な組織によってアマチュアを育てることが肝心です。
千葉：各地の文化協会は、後継者育

成に苦勞している。小、中、高校生を対象に工夫しながら指導していきましょう。

前川：無形民俗文化財は、「技」を持つていてる人を活用し子供達に伝承していくことが大切で、そこへ支援することも必要とされています。

ふりかへる地域ボランティア

佐野：どの地域も同じだと思いが、町内会の運営がむずかしくなっています。地区のふれあい会館等を地域文化の拠点に活用し、人づくりなどねばり強く取り組んでいくことです。福山左義長や三国祭などのように、地域の盛り上がりは、地区で燃えているところが榮えています。

福山：各種の文化団体と多くの組織が連帯をみ合わせて意欲的に取り組み、連携して国民文化祭は成功したのではないのでしょうか。地域づくりも、その地域に根ざした歴史と文化を継承しながら連携していくことが大切だと思えます。



前川 理事長

理事長：地域文化の発展のためには、いかに後継者を育てるか、また総合的なマネジメントの必要性など基本的なことが見えてきました。お聞きしたことを財団の運営に反映しながらより充実するよう努めていきたいと思えます。ありがとうございます。

第9回 (平成19年度)

げんでん

ふるさと文化賞

渡辺さん(洋画)・増永さん(文学)・坪田さん(音楽)

芸術新人賞

上坂さん(郷土芸能)・坪田さん(洋舞)

受賞者インタビュー

この土地の自然から学びたい
「渡辺さん」

財団では、二月七日(ふるさとの日)に第九回(平成十九年度)げんでんふるさと文化賞ならびに芸術新人賞、およびふるさと大賞の表彰式を日本原電敦賀地区本部会議室(敦賀市本町二丁目)で行いました。

前川財団理事長から受賞者一人ひとりに賞状、賞金、顕彰楯を贈り栄誉をたたえました。

今回受賞されました五名の方々に、受賞の感想や地域文化活動等今後の抱負をお聞きしました。



げんでんふるさと文化賞・
げんでん芸術新人賞および
ふるさと大賞の表彰式

におい町川上でふるさとを描き続けている渡辺さんのアトリエを訪ねました。「賞を頂けるようなこと何ひとつ出来ないままアツという間にこの年になりました。晴がましいことです。」と人なつこく話していただきました。

今日まで最も大切にしていたら、この谷の土地をお聞きしますと、「この谷の土地を喰い、この風に吹かれて生きていきたい。」と自らの信条を話され、「これまで絵を描き続けていて幸せです。」と作家の水上勉先生との出会いや著作の装丁、挿し絵を担当されたことなどを伺い、後進の指導等については、「指導など出来ません。むしろ私が子供達



大キャンパスに向い描く渡辺さん

大切なことは、福井を好きになること」
「増永さん」

ふるさと福井の山を題材にしたエッセイ集を出版され、活躍中の増永さんに今回の受賞の感想をお聞きしました。

「私は、山登りが好きで六十数年続けてきましたが、なぜ山が好きなのか、山のどこが好きなのかずっと考えてきました。少しでも核心に近づこうという気持ちを大切にしています。福井の山々のこれまで登山者からかえり見られなかつた山々を四季歩いて今日を迎えました。自分の好きなことを続けることができました。ただで賞をいただいたのでしょ

に教っています。この土地の自然から学ぶことが大切です。これからも健康で村の人達と一緒に普通の村人でありたい。」と笑顔で話していただきました。

音楽で芸術の素晴らしさを伝えたい
「坪田さん」

坪田さんに、今回の受賞の感想をお聞きしました。「大学時代からずっと福井の地で学び、教え、研究活動をしてきました。このたびの受賞で大変



華麗に歌う坪田さん

光栄と思いますが相応しい業績だったかと改めて自身自身に問い直す想いです。」とにこやかにやさしく話されました。

福井の文化の振興や後進の指導育成については、「日本語による日本歌曲こそ私の魂をもって歌い続けることができるジャンルだと実感しています。この受賞を契機に声楽の分野で人の声



「山の魅力」について講義する増永さん

げんでんふるさと文化賞

ふるさとの山川、歴史、アーマに満ちあふれる「色彩の画家」として特され、おおい町川上で描き続けている。昭和四十二年に日展に初入選以降八回入選、昭和五十八年福井県文化奨励賞受賞、示現会に所属。

「遠近洋画集」「山脈黒日記」特を出展し、また、水上朝比の著作七十冊余の装丁、挿し絵を担いしました。平成二年第一回若狭湾美術展を開くなど地元美術、文化活動に積極的に参加し、現在、地元おおい町で子供の絵画教室を開き指導されています。



渡辺 淳さん
(洋画・文化活動)
おおい町(76)

山岳エッセイストとして、自然豊かな福井の山々を歩いてその魅力と感動を発表しており、「霧の谷」「温泉との出会い」「夜明けの霧の山」など山岳エッセイ集十冊を出展。ふるさと福井の山々や風景を表現したエッセイは、多くの雑誌に掲載されています。平成八年から平成十八年まで福井市のり公民館長を務めた他、福井の山の魅力を紹介する講座や文章教室、文学講座を開きこれまで五カ年連続して指導されています。



堀内 滋男さん
(文学)
福井市(74)

昭和四十年福井大学卒業。仁愛女子短期大学に勤務し、以後音楽教育コース音楽科、音楽学科で「音楽」を専門とする教員として多くの学生を育てました。高等教育機関として、全く未開拓の分野であった音楽科(音楽)の担い手としての基礎を築き、福井県の音楽界に多くの実力者を輩出しました。平成十三年から同大学音楽科長として六年間活躍されており、また音楽家として市民音楽会等に出演するなど、地域活動に参加しています。



坪田 信子さん
(音楽・声楽)
あわら市(64)

げんでん芸術新人賞

和太鼓グループ「明神」座長。これまで「ROTKO」や国内外および海外で4日以上に公演。平成七年から地元小学校をはじめ福井県立福井高等学校、福井県立高校、福井県立高等学校に和太鼓演奏を指導しています。平成十九年全国高等学校総合文化祭福井大会格闘士芸術部門に出演した福井県立高校と福井県立高等学校を指導者として受賞に導いた功績は大きい。太鼓演奏の作曲、作詞を行っており、和太鼓演奏、指導者として今後大いに期待されています。



上坂 優さん
(郷土芸能・和太鼓)
越前町(47)

昭和四十一年坪田バレエスクールに入学。昭和四十七年第二十九回全国舞踊コンクールに入選以来、全国入賞六回。昭和五十八年パリ、モスクワに短期留学し、その後も多くの海外公演に出演。代表する出演作に福井を題材にした創作バレエ「越前北の庄」より「流星お市の方」、吉岡節子舞「肉村の道」、越前打刃物のむかしより「刀物の語り」などがあります。現在、坪田バレエ団代表のもとで世界の指導にあたっており、今後の活躍が大いに期待されています。



坪田 陽子さん
(洋舞・バレエ)
福井市(44)

による再現芸術の素晴らしさを伝えていけたらと思います。

私の使命は、福井の地で研鑽する地域の人達にリカレント教育としてより質の高い学びの場を設定し提供することにあると考えています。私自身もそこで学び実践することで地域文化活動推進の一翼となれば幸いです。」と熱い思いを語っていただきました。

「皆様から活かされた力で精進
「上坂さん」

ためた地域の文化活動や後進の指導についてお伺いしますと、「今日、演奏できる力も、指導することの力もこれまでに出合ったすべて皆様からいただいた力です。この感謝の気持ちで活動しています。これまでに教えていただき身に付いた技術と心を磨き、創造して次の世代に繋げていくことが大切です。」

今の力は、決して自分の力でなく多



和太鼓演奏の指導する上坂さん

くの皆様から活かされた力であり、太鼓奏者としてまた、指導者として益々精進を重ね福井の太鼓文化の発展に力を注いでまいります。」と元気に抱負を話していただきました。

「努力すること、あきらめないこと」

「坪田さん」

坪田バレエスクールに坪田陽子さんを訪ね、受賞の感想をお聞きしました。「芸術新人賞の受賞は、これまで指導していただいている坪田律子先生をはじめ応援していただいている皆様のお陰と感謝しています。」と凛とした姿勢でお礼の言葉でした。

後進の指導育成や今後の活動についてお尋ねすると「バレエは華やかな舞台とは違い、厳しい訓練の毎日です。その訓練を通じて、努力すること」と



創作バレエ「越前北の庄」より「流星お市の方」を舞う坪田さん

「あきらめないこと」を覚えました。教師となった今は、そのことを生徒達に伝えていきたい。「バレエ」という枠を太くするため万物に目を向け吸収していきたい。これからも研鑽を積み心身共に健全な子供達が育つよう指導し、コンクール等を通じて福井県を全国にアピールしていきたいと思っています。」と明解に語っていただきました。

若狭の妙玄寺義門 (下)

—江戸時代随一の国語学者—

文／永江秀雄

筆者プロフィール



郷土史家
— 永江 秀雄氏 —
Hideo Nagae

昭和2年、若狭町で出生。福井師範学校卒業。地元小学校教員、農協職員、県史編集執筆委員、上中町教育委員等を歴任。昭和57年から22年間県立若狭歴史民俗資料館嘱託として、民俗、伝統文化の調査・研究に取り組まれ、多くの功績を残された。

平成12年、文化財保護法50周年記念特別功労者として文部大臣表彰。平成13年、当財団げんでんふるさと文化賞を受賞された。

義門師に学ぶ

(一) 義門師の研究

妙玄寺義門師の研究は、まことに広範深遠に及んでおりますが、真に幸いなことに、国語学者の三木幸信博士により、義門師の全業績を網羅された『義門研究資料集』上・中・下巻の三大冊が、昭和四十一年から四十三年にかけて、東京の風間書房から出版され、更に昭和四十八年から五十一年に

人の駅 東條義門

the Japanese classical scholar who built the foundation of Japanese grammar

일본어문법을 개탄한 고고 거인



1760年(天明6)妙玄寺の3男信綱の末子であった義門は、1790年(寛政11)願成寺の義子になり、義父の跡を受けて仕職となりました。が、1807年(文化4)仕職である兄の失職が亡くなったため、この仕職等仕職となり要領と改められた。漢学を専攻して学び、漢文難字高麗の門人となりました。本居宣長や高橋の漢学研究に関心をもち、詳細な文法の説明に努めました。『義門先生』では、漢字の語源に5音10音の区別があることを考証し、『山口』では動詞・形容詞・連動詞の活用語に大きな貢献を残し、本居宣長らの研究を継承・発展させ、江戸時代随一の国語学者と認められました。境内に顕彰碑があります。1943年(大正14)に亡くなりました。

「人の駅 東條義門」
妙玄寺境内に掲示 (小浜市作成)

は、『義門研究資料集』別巻「一・二・三」が、別の出版社から刊行され、義門師研究の万全が期されています。三木博士が、この膨大な義門師関係資料の、完璧なまでの集大成を為し遂げられたのは、恩師の故吉沢義則博士の御遺志と学意に報いるためであったことが、『集成』の最末尾に記載されており、私が二十年ばかり前に、三木先生から賜りましたお手紙にも、そのことが書かれていて、深い感銘を受けております。

義門師について、私が心を込めて学び始めた切掛けは、たまたま親戚の家で蔵書の中に、日本文学報国会編の『東條義門』を見出し、惠与を受けたことにあります。全編がすべて貴重な内容ですが、私は、特に仏教学者で国語学者である多屋頼俊博士の御発表に、強く心を惹かれました。多屋先生の御寄稿「義門師の面影」には、義門師の学術上の業績と共に、その人柄について、懇ろな文章が切々と綴られています。

(二) 「男信」について

ここに多くを詳述することは、紙



文明五年開板「三帖和讃」
小浜市 証明寺蔵

面も限られ許されませんが、その二二について紹介させていただきます。これは前号にも既述したことでありますが、多屋博士の「義門師の面影」などにより



義門師著「男信」上、中、下巻
小浜市 妙玄寺蔵

宗聖教(経典)によく見られる「信心」という言葉(漢字)は、「シンジン」と読まれるのに、その振り仮名は必ず「信」には「シン」「心」「心」には「シム」となっているのは何故かと、二十歳ごろ(十八歳とも)の義門師が疑問を抱き、その探究を始めた。そして、およそ四十年近くも続けられたその成果が、「男信」(奈方之系)の大書となって刊行されたということでありませぬ。

その内容は、中国伝来の漢字には、末尾が「ン」で終る文字が無数にありますが、その中には、今これを仮にローマ字で書くと、「ン」で終るものと、「E」で終るものとがあり、それが和語(国

語)では、「ン」と「ム」に書き分けられていたということも、義門師は全国の地名表記や万葉仮名の使用例を精査し、中国の音韻の研究書「韻鏡」を参照するなどして、論証されたわけですね。また、これら「h」や「m」は、わが国では母音の a・i・u・e・o を加えて、ナニヌネノやマミムメモと発音されてくる場合が多く、更にラリルレロ・バビバベボともなっている事例も見られるということですね。若狭の地名の「連敷」も、「信」の長音「オン」が「オン」と読まれている末例であり、越前の「教習」は、「教(トク)」の読みが「シン」となり、「ツ」又「から、ツル」に変化した例として、義門師の「男信」に、記述されています。

なお、このような音韻の研究も、義門師の単なる興味や知識故に行われたことではなく、「信心」「シンシム」の振り仮名のように、真宗聖教の正し

さを証明することを真の目的とされたものであると、多摩先生も三木先生も強調されています。

(二) 義門師の面影

多摩先生の「義門師の面影」には、義門師の学問研究の真実が、その慎重さ謙虚さが具体的に描かれており、学者の手本とすべきだと讃えられています。それと共に、本来信仰の篤い人であった義門師の家庭人としての家族への思いやり、また社会一般に対する奉仕的な行いも詳述されており、私は改めて敬服の念を深くしています。更に、私には忘れられない言葉を「義門師の面影」の中に見出しました。その当時、この寺院の辺りでは、「証明寺は夢ひく、願慶寺は三味ひく、妙玄寺は糸ひく」と、はやしたという話がある、とのことでした。義門師の妙玄寺の直ぐ近くには、今も願慶寺と証明寺という歴史ある真宗寺院があります。「糸ひく」とは「糸繰り」をすることで、義門師の夫人も内職でもされたのが、苦しい家計をささえられ、義門師の研究が続けられたということでした。金銭や名利を全く度外視し、ひたすら真実を求め学問に精進して、世に貢献されたその生きざまを思う時、私はわが身につまされて涙させられることがあります。

義門師と郷土

(一) 橋本進吉博士のこと

義門師の郷土は、私どもの郷土でもあり、このような学者としても、人間としても偉大な方が出られたことを私をも含めて郷土人は、もっとよく知り、喜びを深めたいと思います。昭和

四十八年三月十二日のこと、敦賀市の敦賀西小学校で、この学校の卒業生で



橋本進吉博士 顕彰碑 竣工式
昭和46年3月12日 敦賀西小学校にて

ある国語学者橋本進吉博士の顕彰碑が建立され、その竣工式が行われました。この橋本進吉博士こそ、私が「わが福井県で歴史上にも特筆されるべき、優れた二人の国語学者がでておられる」と申しました、そのお一人でありました。橋本博士は東京帝国大学教授ともなわれ、その研究は国語学の全域に及び、特に日本語の歴史的研究に力注がれて、多数の著書があります。この竣工式には、広く全国各地から多数の方々が出席され、私も御案内を受け、在野の一学徒として参列させて頂きました。

(二) 服部四郎博士のこと

この日、東京大学名誉教授で、わが国の言語学者としての第一人者である服部四郎博士も、はるばる御参加になりました。橋本博士のお弟子であり後輩にも当たられる服部博士のごことは、その著書により、私は特にそのお人柄を深く尊敬していましたので、この竣

工式のお蔭で初めて直接お目にかかれる機会を得、とてもうれしくなりました。所が、式典の後に、服部先生が東条義門師のお寺お墓へお参りしたいと願っておられることを承り、私が御案内役を務めさせて頂く幸運に恵まれました。この時、特に希望されて、方言研究で有名な弘前大学の此島正年博士、女房ことばの研究で有名な日本女子大学の国田百合子博士も同行されました。この日の感激は、昭和五十八年十一月に、服部博士が文化勲章を受章されました時に、私は福井新聞学芸欄に「服部四郎先生のこと」と題して評述寄稿し、掲載させて頂きました。今もこの感激は全く冷めることなく、本稿を執筆しつつ、義門師、服部先生、また橋本博士に対する敬慕の念は一体となり、一層強く燃つてまいります。



昭和46年3月12日小浜市妙玄寺にて
中央 服部四郎博士
(左此島正年博士 右筆者)

(三) 義門師の顕義録

なお、私の大きな驚きとして、義門師が多くは妙玄寺で、時には他の寺院でも、真宗経典の講義をされたとのことですが、それを受講者が筆録したものが残されており、後に出版されていることが、多摩博士、三木博士の著述

に明記されています。その中には、若狭の私の在所に極く近い臨島の法隆寺で行われ、同じく近隣の下吉田の永福寺の住職など四名が筆記したものもあることが解説されており、師弟同士の熱心な様子に、感嘆させられている次第です。

(四) 「活語指南」について

また、義門師は幾多の研究を著述した橋本(下書き)を、研究の進展に伴って幾回も書き改められたということですが、活用の研究を続けた文法書の「活語指南」は、少なくとも五回は書き改められているとのことでした。その橋本の一つが、昭和三年の夏に前記の永福寺で、多摩博士により発見されたことと、これも驚きです。更に私が最大の関心を抱きました義門師の音韻研究書「男信」の二度目の稿本「櫻園仮字考」の写しと思われるものが、現小浜市中井の西広寺で、多摩博士により発見されたことが、「義門師の面影」に述べられています。

(五) 私の研究

ここで想い起こすこととして、私は昭和二十五年ごろから、若狭の地名「敷敷」の探究を続けて来ました。この語源は「小丹生」であることが明らかとなりましたが、この「小丹生」に「通」が当てられ「オニ」と読まれる原則を、義門師の「男信」に教えられ、私の研究は完結できた次第です。既に数十年も前、妙玄寺へ参上し、十世御住職の東条義山先生(福井県立若狭高等学校長)から、御秘蔵の「男信」(なましな)を前にして、御親切な御教示を賜り得ましたことを、今も感謝せずにはおられない私です。(おわり)

ふるさと自慢 ～ふくいの魅力～

第10回

ふるさと大賞
写真コンテスト



「あんたが大将」

お盆の行事、勝山市北谷のユニークな祭りを、ローアングルとシンメトリーな画面構成で捉えられ、表現豊かな力強い写真になっています。被写体の発見が「ふるさと大賞」に結びついたものです。「ひょっとこ」のしゅさやストロボ光の当て方も的確で、背景の空や人物を暗く落とし、主体をうまく浮かび上がらせていて「ふるさと大賞」にふさわしい素晴らしい作品に仕上がりに、作者の力量がうかがえます。満場一致でふるさと大賞に推されました。(講評/八木 隆氏)

ふるさと
大賞



青山 重隆さん
(鯖江市)

平成十年度より郷土福井の自然、歴史、文化等の地域資源を題材とした「ふるさと大賞」写真コンテスト顕彰事業を行っています。
第十回目となる十九年度は、五一〇点の応募がありました。審査の結果、五十八点の入賞作品(別表のとおり)が選ばれました。



「ふるさとの川に舞う」 一般の部

柔らかな光を放ちながら、華やかに乱舞する無数のホタル。その光景はまるで地上の星空のように輝き、見るものを魅了します。ホタルの光跡を巧みにとらえ、幻想的で心落ち着く作品に仕上げられています。霞が覆い川の流れの音だけが聞こえる静かな山奥。月明かりに照らされた川面が群青色に浮かび静寂さを一層引き立てています。今では、なかなか見ることのできない日本の原風景。作者の故郷への思いが伝わってきます。

(講評/勝山 卓司氏)

知見 治さん(おおい町)

ふるさと賞



「洞窟の夕日」 一般の部

絶好の位置と時間帯に申し分のないタイミングで撮影された作品で、まるで一副の絵を見るようです。大きくえぐられた洞窟のシルエット。そのど真ん中、はるか遠くに小さく見える夕日が空間の広がりを感じさせます。近年このように赤々と沈みゆく夕日を見ることが少なくなったからこそ、大切に残したい一枚です。

(講評/水谷内 健次氏)

山岸 哲夫さん(越前市)

筆 為恭 冷泉 れいぜいためちか 一幅 神功皇后図



垂髪に裳唐衣姿の神功皇后が、右手で團扇を持ち大床子に正座する姿が描かれています。また左側には、皇后の太子である応神天皇を抱く武内宿禰の姿がみえます。

背景には、州浜に松林を描いた大衝立をはじめ、御禮の上に飾られた兜と袋弓や平胡蝶が立てかけられており、神功皇后の三韓出征における陣営の一齣を描いたものと推測されます。

その筆致はたいへん精緻で、垂髪の流れさ、裳唐衣の紋様の精密さで、

調度品の描写なども丁寧に仕上げられています。また彩色にいたっては、緑青・紺青・朱・金泥など上質の岩絵具が用いられ、為恭独自の華麗な設色効果が発揮されています。

ちなみに、本図の典拠である『日本書紀』には仲哀天皇が神功皇后と敦賀に行幸し行宮を建立され、それを簡飯宮とした話など、当地と縁りのある記述がみられます。これら神功皇后や応神天皇、武内宿禰は、

越前国一ノ宮の社格であった氣比神宮の祭神七座としてもまつられ

ており、馴染み深い神々といえるでしょう。

筆者の冷泉為恭は、京狩野家の永臣の弟、其道永泰の三男として文政六年（1823）に出生しました。狩野派の画風にあきたらず、

古大和絵に想いをはせ、二十歳頃までには社寺大名家伝来の主要な絵巻物の模写を終えました。嘉永三年（1850）二十八歳で朝廷の官人・岡田家の養子となり、正六位下式部大輔に叙任。安政二年

（1855）三十三歳、式部少輔

同五年（1858）三十六歳、従五位下。文久二年（1862）四十四歳、近江守。元治元年（1864）四十二歳で没しました。

- 絹本着色
- 縦106.2cm 横55.7cm
- 江戸後期
- 落款 藤原為恭畫之
- 印章 なし

福井の文学碑

作家・俳人 多田裕計

福井市出身の小説家で俳人でもある多田裕計は、県内の小・中・高等学校の校歌を作詞されています。福井市立宝永小学校の正門前に校歌碑が立てられています。

宝永小学校校歌

一 白雪ひかる遠い山
九頭竜は豊かに連し
恵みあり ふるさと
教えの泉ここにわく
その名宝永
ああわが学び舎



宝永小学校校歌 碑

と母校の校歌を作詞されています。(昭和二十六年作詞) 宝永小学校の他に、武生東小学校、松原小学校、三国中学校、勝山高校の校歌を作詞されています。

福井県初の芥川賞作家



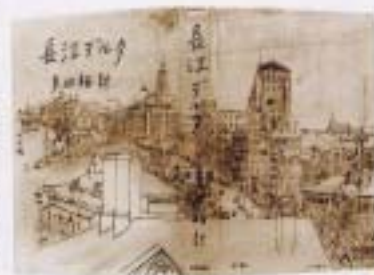
作家・俳人 多田裕計

宝永三丁目で生まれ、宝永小学校を経て、福井中学校卒業後早稲田大学仏文科に進み、横

光利一に師事しました。昭和十一年(一九三六)早稲田大学卒業。昭和十五年(一九四〇)松竹から上海映画会社に転じ勤務しながら執筆。日中戦争のさ中の揚子江河口の三角地帯を舞台に、両国の青年の苦悩を描いた時局小説とも呼ばれた「長江デルタ」が昭和十六年(一九四一)夏に第十三回芥川賞に選ばれました。同賞の受賞は本県出身者で初めてでした。

文芸評論家の奥野健男氏は戦後「長江デルタ」について「日本の文学者が是非とも作品化しなければならぬ題材である。当時、作者としてせいっぱいの日本人インテリの立場の主張と

して書いたのであろう。そつじつと云るに、あの戦争下で作品を発表せざるを得なかつた作者の困難と限界がある。」と評されています。



芥川賞受賞作「長江デルタ」

受賞した年昭和十六年十二月太平洋戦争が勃発。昭和十八年に海軍報道班員として徴用されマレー、インドネシア、ニューギニアなどを転々とし小説を書く場を失っていました。

戦後の福井文化の基礎づくりに尽力

空襲下の東京を避け、故郷福井には疎開のため昭和二十年(一九四五)から昭和二十四年(一九四九)まで四年間在住しましたが空襲と震災に遭い過酷な運命でした。

福井震災(昭和二十三年)の後三國へ移り住み、この時、三國に疎開中の三好達治らと交流を深め、この間、県社会教育委員を務め、昭和二十三年県文化協議会(当初は県文化団体協議会)の設立に尽力するなど戦後の本県文化の基礎づくりに活躍されました。

昭和二十四年から神奈川県逗子海岸に移り、昭和二十五年に福井震災の体験を描いた「荒野の雲雀」を発表し、昭和三十一年には、自分の青春をのみこんだ戦争を総決算しようとした大作「アジアの砂」を刊行。昭和五十一年から五十四年にかけて「文学界」に望郷の想いを織り込んだ短篇小説四部作

を発表しました。

「幼年絵葉書」昭和五十一年
「城下少年譜」昭和五十二年
「母と芍薬」昭和五十三年
「父と明笛」昭和五十四年

裕計と俳句

多田裕計は、俳句を生涯つくりつづけてきました。

祖父が旧丸岡藩の俳諧師であったことや、文学の師である横光利一を通じて俳人の石田波郷との出会いにより俳句にも関心を持ちつづけ、昭和三十七年に俳句文芸誌「れもん」を創刊し主宰しました。

裕計の俳句は、感覚的で独自のロマンスムあふれる作品といわれており代表的な句に、

草萌えにシヨパンの雨滴打ち来る
あけぼのの夢の語れ青すみれ
秋照りや東尋坊へ松なだれ
死の夢に愛なだれてあたりけり

があります。

ふるさと福井を想い、戦後の福井文学の礎を作り、多くの作品を発表して、昭和五十五年(一九九〇)に六十八歳で生涯を終えま



三国中学校校歌 碑

第10回 狂言を楽しむ会

日本伝統の古典芸能の良さを多くの方々に親しんでいただくため、財団では、茂山千作師一門を招き、「狂言を楽しむ会」(日本原電協賛)を十一月二十日、敦賀市プラザ萬象の能楽堂で開きました。

当日、昼の部は、敦賀市内の中学生(気比、栗野、気比高付属中)約五百名が体験学習の一環として、大蔵流茂山

一門による狂言を鑑賞しました。公演に先立ち、若手の狂言師茂山宗彦さんから狂言や舞台構成をはじめ、小道具の使い方、上演目をわかりやすく解説がされた後、「栢山伏」と「附子」の二曲が演じら

れました。鑑賞した中学生達は、狂言をはじめて見る生徒がほとんどで、狂言師の滑稽なしくさで連続する喜劇に、大きな拍手を送っていました。

夜は、一般の部で、会場に約三百五十人のファンが集まり、狂言師茂山重司さんから狂言の歴史や狂言が喜劇として庶民生活の中で親しまれ続けてきた由來などを聞いた後、「二人袴」

、「魚説経」、「長光」の三曲が演ぜられました。

今回の公演で、平成十九年度に文化勲章を受章された茂山千作師は、「魚説経」



「附子」を演じる茂山宗彦さんと茂山重司さん



「栢山伏」で髷を演じる茂山 茂さん



「魚説経」を演じる茂山七五三さんと茂山重平さん

に出演を予定していましたが、ケガのため出演できなくなり、代って茂山七五三さんが務めました。

観客からは、奥の深い芸と「ミカルな演出に笑い」大きな拍手が送られていました。

【あそび】

「二人袴」は、どうしても恥かしく響入りできない弟に兄が舅の家の前まで付き添います。兄がいると知った舅は呼びに行かれますが、礼式の袴を着し着用していません。仕方なく交互にはき替えて舅の前に出るが二人揃ってきてほしいと言われ困ってしまう。そこで名案が浮かび二人揃って舅の前に出ますが……。

「魚説経」は、摂津の国兵庫の浦に住む漁師は、殺生が嫌になり出家をしたが、俄坊主で経も読めず説経もできない。都へ上るとき法事をしてくれる僧をさがしている信心深い男と道連れになり、男は、俄坊主を連れ帰る。

さっそく説教を頼まれると、漁師から他になつたばかりの俄坊主は、魚の名前を並べてもっともらしく説教をはじめますが……。

「長光」は、男が賑やかな市を見物していると、なれなれしく髭の男が近づき、手にした太刀を盗もうと男の言葉を真似します。髭の男は、太刀は自分のものだと言います。

男は、詐欺師の男の質問に答えるうちに作戦を思いつき太刀をとり返します。

第8回 日英小学生絵画交流展

— 日常のくらしを描いた作品 —

日本とイギリスの小学生の絵画交流展を財団と日本原電、BNG S社(英国核燃料会社)が共催して開きました。十二月一日、敦賀原子力館で敦賀市教育委員会、



日英の友好を深めた絵画交流展(敦賀原子力館)

る敦賀北小学校をはじめ各小学校校長、小学生と家族の方々など多くの参加を得て開会式を行いました。また、十二月九日まで同館で、十二月十一日から二十七日まででんふれあいギャラリーで展示会を開きました。

今回で八回目となるこの交流作品展には、英国西カンブリア地方、セラフィールド近郊の五校から五十二作品と、敦賀市内の四校(敦賀北小、敦賀西小、敦賀南小、成新小)から四十一作品が出版されました。

「私たちのくらし」をテーマにしたこの作品は、十月五日から十三日までイギリスセラフィールドビクターセンターで展示された作品で、日本の子供達は、祭りや花火大会、敦賀の風景、友達などの絵で、イギリスの子供達は、西カンブリア湖水地方の風景、サッカーや友達、家族の楽しい絵画で両国の子供達の「くらし」をよく表現しています。



絵画を出展した小学生(開会式)

会場に訪れた人達は、子供達が日頃感じている「くらし」の作品を興味深く観賞していました。

予算総額(一般会計)9,100万円

20年度予算は、総額(一般会計)9,100万円とし、重点施策を重点に予算配分を行い、事業費総額7,470万円を計上。財団寄付行為で規定している事業区分の内訳は次のとおりです。

1. 地域文化の振興事業
2,030万円
2. ふれあい・ゆとりの創造事業
930万円
3. 芸術鑑賞機会の提供
文化創造事業 3,290万円
4. 優れた文化活動に対する
顕彰事業 750万円
5. その他の事業
(ホームページ、広報誌の発行など)
470万円

6 重点施策

1. 文化団体等の活動を支援する助成事業の充実
2. ふくい県民総合文化祭および県内高等学校文化部活動の支援
3. 地域に根ざしたふれあい活動の推進
4. 文化、芸術を受する県民風土を高める顕彰事業の定着化
5. 魅力ある文化イベント提供事業の推進
6. 信頼される財団として広報・広聴活動の展開

平成20年度財団事業計画・予算を決定

ふくいの文化の育成支援など6重点施策を推進



20年度事業計画および予算案を審議する第30回理事会

平成二十年度は、財団設立以来これまで十年間に積み重ねてきた活動実績と多くの方々の絆を大切に、ふくいの文化活動育成支援をはじめとする六つの重点施策からなる事業計画とこれに関連する予算を編成しました。

平成二十年度は、三月十一日に開催した第三十一回評議員会と第三十回理事会で可決承認されました。

第72回 福井県かきぞめ読書大会

げんでんふれあい福井財団特別協賛

この作品の二次審査会は、一月二十七日に若越書道会館により慎重に行われました。その結果、最優秀の大賞に、綱谷有



表彰式で財団賞を受ける田中千陽さん

第七十二回かきぞめ読書大会(福井新聞社主催、(社)若越書道会共催、当財団特別協賛)に、県内の小、中、高校生、大学生から七万二千四百四十四名の応募作品が寄せられ、第一次審査を通過した三千三百五十人が一月二十八日に県内十五会場で開催された。この作品の二次審査会は、一月二十七日に若越書道会館により慎重に行われました。その結果、最優秀の大賞に、綱谷有

佳子さん(福井・豊小)、前田春香さん(小浜中)、酒井智里さん(仁愛女子高)、山内佳芳里さん(福井大)の四人が選ばれ、また、推薦百四十七名、準推薦二百三十一名、奨励賞二百六十八名が決まりました。

二月十日、福井新聞社・風の森ホールで表彰式が行われ、財団では、小、中学生の推薦作品の中から田中千陽さん(武生一中)ほか十名に「げんでんふれあい福井財団賞」を贈りました。



席上揮毫に挑む応募者

第10回 ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展

ふるさと自慢の作品



「ふくいの魅力」を鑑賞に訪れた写真ファン(ショッピングシティ「ベル」-福井市)



「ふるさと大賞」に見入る人たち(げんでんふれあいギャラリー-敦賀市)

第十回ふるさと大賞写真コンテストの入賞作品展を二月二十九日から三月十日まで、げんでんふれあいギャラリー(敦賀市)で、二月十五日から三月二十日までショッピングシティ「ベル」(福井市)の二会場で開催しました。

会場には、応募作品五百十点の中から選ばれたふるさと大賞一点、ふるさと賞二点、優秀賞四点をはじめ五十八点の作品を展示しました。

コンテスト審査委員長の八木隆さんは、「今回の出品写真は、人物を主体にしたもの、風景、祭とこの三つが均等に応募されていました。応募者の感性が「ふるさと」を素直に表現されていて非常に好感がもてました」と総評されました。両会場とも写真愛好家やファンの方々が多く訪れ、個性的で感性豊かに表現した「ふるさと自慢」の作品に心ゆくまで見入っていました。

子どもミュージカル「ヲホド皇子」

児童 33 人が熱演

継体天皇即位千五百年を記念して、継体天皇の少年時代を演じる子どもミュージカル「ヲホド皇子」(作・山田昭夫さん、演出・岡田利雄さん)が十一月十八日に坂井市の「三國社会福祉センター」と十二月二日、ハートビア春江で二回公演されました。



皇子役の大岡莉奈さん(左から二人目)と子供達の熱演

この子どもミュージカルは、坂井市の市民劇団「紅の会」が主催(当財団協賛)し、三國町とあわら市の児童二十二人と丸岡町新体操クラブの十人で計三十三人の豆役者たちが熱演しました。

物語りは、皇子が子供達に慕われ、坂中井の地で池の水を抜いて畑に変えるなどの活躍ぶりや目子姫と結ばれるまでを、歌や踊りで元気いっぱいのおストーリーを繰り広げました。

最後まで清じた子どもたちは、充実した笑顔いっぱい満員の会場から盛大な拍手を受けていました。

ザ・ソナチネ 素敵なコンサート

～風に乗って未来へ～



楽しいコンサートの小松長生さん(中央)、高木裕美さん(左)、江原陽子さん(右)

ザ・ソナチネ2007 in 三國へ風に乗って未来へへ公演(当財団協賛)が十二月二日坂井市三國観光ホテルで開催されました。坂井市三國町出身で指揮

者の小松長生さんとピアノリストで福井大学教授の高木裕美さん、ゲストのソプラノ歌手の江原陽子さんによるトリックを加えた演奏会で、今回で六回目の開催です。

第一部は、小松さんと高木さんのピアノ連弾、江原さんと三人によるトリックコーナー。第二部は、高木さんがベートーベンの「月光」や後藤丹さん作曲の「三國節幻想」を独奏。江原さんは「十五夜お月さん」、「涙そうそう」など四曲を情感たっぷりに歌いました。最後は、小松さんの指揮で、高木さんの伴奏に合わせ、会場のお客様約二百人が心一つになって「千の風になって」を大合唱し、美しい歌声が会場に響きわたりました。

平成19年度 福井県新人演奏会オーディション

新人音楽家が登竜門に挑む



練習の成果を発表する参加者

本県の若手音楽家の登竜門となっている県新人演奏会公開オーディションが二月二十四日、県立音楽堂で開催されました。この演奏会は、本県出身者および県内在住の音楽家を育成するため県文化振興事業団が主催(当財団協賛)して毎年開催しています。

今回は、ピアノ部門の二十一人を含め三十一人が規定の時間内に日頃の練習を重ねた曲を披露しました。

審査は、声楽家の吉田浩之さん、ピアニストの植田克己さんらが当り、ピアノ部門九人、声楽部門五人、器楽部門二人、作曲部門一人の計十七人が新人演奏会の出演を決めました。

三月二十三日に同音楽堂でオーディションに通過した山崎佑太さんが開かれ、会場から将来有望な若手演奏家に熱い拍手が送られました。

第3回 全国YOSAKOIデザインコンペティション in ぶくい

福井県産織維でよさいこい演舞

全国的に人気盛んな「よさいこい」の演舞衣装の出来栄を競う「第3回全国YOSAKOI衣装デザインコンペティション in ぶくい」(ぶくいファッショングループ実行委員会主催、当財団協賛)の最終審査会が二月十七日にサンドーム福井で開催されました。

織維産地福井と生地の良さを全国に発信するため、デザイン画をもとに本県産の生地で作成した衣装で演舞し競うもの



財団賞受賞の「明新森組」小学生チーム

です。全国から九十九チームの応募があり、一次審査を通過した十二チームが、デザインコンテストをアピールし鮮やかな衣装で熱演しました。

大賞には、蝶をイメージした華やかな衣装で美しく踊った「リレント舞華軍団(北海道)」が選ばれ、昨年に続いて二冠となりました。また、優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞は、福井の明新森組の小学生チームが受賞しました。

平成20年度 財団の助成を受けたい団体を募集 申請期限4月20日(日)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて助成をしています。平成20年度において文化活動等の事業を行うため、財団の助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成20年4月現在で、原則として設立後2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

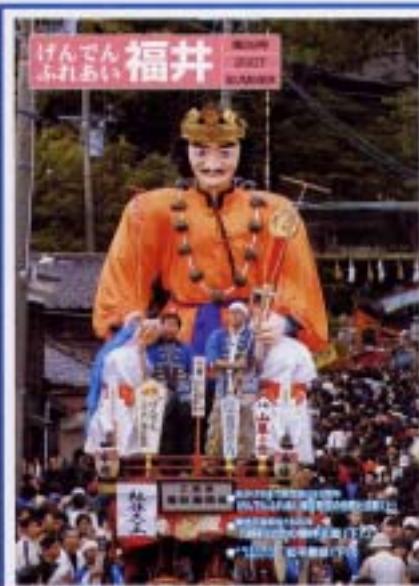
応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を4月20日(日)まで(申請事業の実施が4・5・6月の場合は3月20日まで)に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

読者アンケートご回答のまとめ

げんでん 福井 第28号

本誌第28号のアンケートに総数38通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



第28号で良かった記事は

- おかげさまで財団設立10周年 げんでんふれあい福井財団の役割と活動(上) 11名
- 継体天皇即位1500年 「越前出目の継体天皇(下)」 19名
- ふるさと福井・人物シリーズ 「松平春章(下)」 15名
- 平成18年度風花随筆文学賞・財団賞 受賞作品紹介 11名
- ふくい伝統行事シリーズ「三國祭」13名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/22 海魚図 一冊 幸野保樹 8名
- 福井の文学碑「詩人 則武三雄」 7名
- 若狭路文化研究会 第3回フォーラム 「王の舞さんと若狭路の民俗」 7名
- 情報ファイル (平成19年度財団助成事業決まる 他) 4名

本誌への主なご意見

- 表紙に任命された、三國祭のすこさを知りました。
- 継体天皇の記事がとてもわかりやすく、勉強になってよかった。
- 滋賀県高島市の継体天皇についての記事も載せてほしい。
- 風花随筆文学賞の受賞作品に感銘しました。
- 薄い冊子の中に、福井の歴史や伝統についてたくさんの内容がある。
- シリーズをリーフレットにして下さい。
- さらに今後、地域社会の発展のために、文化・歴史など、わかりやすく伝えていただきたい。
- 15周年を目指して、今後とも本県の文化振興とふれあいゆとりある地域づくりのため、一層の活躍を期待します。
- 家庭に一冊ずつ配布していただくことはできないでしょうか。

財団イベント INFORMATION

文化講演会	講師 辻イト子 (タレント)	4/13 (日)	敦賀市 プラザ萬象	敦賀市連合婦人会と 共催
オペラハイライト	林康子&吉田浩之	6/13 (金)	福井市 ハーモニーホール	福井県文化振興事業団 主催 財団協賛
ちょっと素敵な音楽会	戸田弥生	6/20 (金)	福井市 福井新聞社・ 風の森ホール	福井新聞社主催 財団協賛
げんでんふれあいコンサート 2008	カッパ座 「オズの魔法使い」	6/29 (日)	敦賀市民文化センター	財団主催 入場料 500円
なるほどクラシック音楽	青島広志	7/5 (土)	敦賀市民文化センター	敦賀市文芸協会主催 財団協賛

